

新型コロナウイルス感染症に関する都民の皆様へのお願い

予防策について もっとも大切なことは『標準的な感染症予防策』です。

- ① 外出後は手洗いを！ うがいも有効とされています
- ② 咳やくしゃみをしている方はマスクの着用を！ 他者への感染予防が目的です
(健康で症状のない方のマスク着用の有効性は高くないとされています)
- ③ 軽い感冒症状の場合は自宅で休養・安静を！
- ④ 症状が長引いたり、重くなってきたら医療機関へ電話連絡の上、受診を！
- ⑤ 普段からバランス良い栄養と休養をとり体調管理を万全に！
- ⑥ 高齢者や乳幼児、体調の思わしくない方は、人ごみへの外出は控えましょう
～ これらの項目は『通常のインフルエンザ流行期と同様の対応』です ～

新型コロナウイルス感染症の検査対象となる疑い例について

- (1) 発熱または呼吸器症状(咳、痰、鼻水等)があり、確定患者と濃厚な接触がある
- (2) 37.5℃以上の発熱と呼吸器症状(咳、痰、鼻水等)があり
 - 1) 2週間以内に対象地域(※)に渡航・滞在したことがある
 - 2) 2週間以内に対象地域(※)に渡航・滞在した者と濃厚な接触がある

以上の要件を満たした場合に検査対象となります。

※対象地域：令和2年2月13日現在、中国湖北省及び浙江省

(対象地域については、発生状況に応じ変更される場合があります)

新型コロナウイルスの検査は、現時点では時間と手間がかかり多くの方々に行うことができません。そのため上記の要件に該当しない方への検査は難しい状況です。

新型コロナウイルス感染症の感染力、重症度、診断、治療について

- ① 感染力はインフルエンザと同程度かそれより弱いとされています
- ② 重症度は、通常のインフルエンザなどと同程度と予想されます(例年のインフルエンザでも高齢者や免疫力の低下した方など重症化し死亡する場合があります)
- ③ 簡易的な診断方法が現時点ではありません
- ④ 治療薬はありません(インフルエンザに対するタミフル®のような抗ウイルス薬はまだありません)
- ⑤ 感染しても多くの方は症状が出ないか、少し長めの呼吸器症状で完治すると予想されます
- ⑥ 肺炎になった患者さんへの治療法は、他の肺炎治療と大きくは変わりません
(超重症例では、多様な治療が試みられています)
- ⑦ 予防方法も上記の『標準的な感染症予防策』で十分とされています

* 2009年に流行し大きな脅威になると思われた“新型インフルエンザウイルス(pdm2009)”は、近年流行しているA型インフルエンザの主流です。日本の医療体制は今回の新型コロナウイルス感染症に対しても十分対応でき、重症化の可能性も低いと思われます。

* 現在、多くの不正確な情報が氾濫しています。厚生労働省のホームページなど信頼度の高い情報の取得を是非お願いします。ご不明な点はかかりつけ医にご相談ください。

新型コロナウイルス感染症に係る相談・医療提供体制

○ 相談・医療提供体制を強化

【都・特別区・八王子市・町田市保健所】

帰国者・接触者電話相談センター

<感染が疑われる患者の要件>

- I 発熱又は呼吸器症状（軽症含む）を有し、確定患者と濃厚接触歴あり
- II 37.5℃以上の発熱かつ呼吸器症状を有し、発症前14日以内に対象地域（中国 湖北省）に渡航・居住していた者
- III 37.5℃以上の発熱かつ呼吸器症状を有し、発症前14日以内に対象地域（中国 湖北省）に渡航・居住していた者との濃厚接触歴あり
- IV 発熱・呼吸器症状その他感染症を疑わせる症状のうち、医師が医学的知見に基づき、集中治療等が必要かつ特定の感染症と診断することができないと判断し鑑別を要したもの

②保健所が調整

帰国者・接触者外来

保健所経由で遺伝子検査

陽性的場合

【感染症指定医療機関】 12病院

- ・ 特定感染症指定医療機関 1病院4床
(国立国際医療研究センター病院)
- ・ 第一種感染症指定医療機関 4病院8床
(都立駒込・都立墨東・公社荏原・自衛隊中央病院)
- ・ 第二種感染症指定医療機関 10病院106床
(都立駒込・都立墨東・公社荏原・公社豊島など)

(都民)

①受診
相談

③受診先
案内

④受診

一般的な
相談

都コール
センター

【感染症診療協力医療機関】

(約80医療機関：非公表)

感染拡大時

※必要に応じて受入要請

【感染症入院医療機関】

【指定二次救急医療機関】